

エゾエンマコオロギ

Teleogryllus infernalis (Saussure)
バッタ目・コオロギ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】—

選定理由

既知産地を調査したが、確認できなかった。県内での既知生息地が三里浜だけであり、30年近く確認されていないことを考慮し、絶滅の危険性が高まっていると判断した。

分 布

北海道、本州に分布し、和歌山県紀ノ川が現在の南限。県内では三里浜でのみ記録がある。

種の特徴

体長 20～33 mm。県内でふつうにみられるエンマコオロギに大変よく似ており、形態的には頭部の眉斑の違いで区別される。卵越冬で秋に成虫が出現する。北海道では耕作地等の草地に生息するが、本州では河川下流～中流の礫質の河原等に生息する。

生息を脅かす要因

三里浜周辺の植生環境の変化や、マツ林への薬剤散布の影響を受けていると考えられる。

参考文献 福井県自然保護課 (2002)、村井・伊藤 (2011)、日本直翅類学会 (2006)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
											○						

イトアメンボ

Hydrometra albolineata (Scott)
カメムシ目・イトアメンボ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

本州以南の日本全土に分布するが、環境の悪化により急速に分布域、個体数を減少させている。本県では 1998 年の記録以降採集されていない。

分 布

急速に分布域、個体数を減少させている。県内ではあわら市、南越前町、敦賀市の 3 か所で記録があるものの、1998 年以降採集されていない。

種の特徴

体長 11～14 mm で、体は細長く、頭先端部は肥大している。体色は暗褐色。池沼、水田、河川等の水際の雑草間に住み、水面を歩くこともできる。近縁種にヒメイトアメンボがあり、混同される可能性もある。

生息を脅かす要因

水田、河川の整備による水辺環境の悪化。農薬等の影響も懸念される。

参考文献 福井県自然保護課 (2002)、福井県自然環境保全調査研究会 (1998)、宮本 (1965)、日浦 (1993)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
						○		○					○				

コオイムシ

Appasus japonicas Vuillefroy
カメムシ目・コオイムシ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

食物連鎖の上位に位置し、個体数が減少しやすい性質をもともと備えていることに加え、県内の生息地は極めて局地的である。

分 布

琉球列島を除く国内全域に分布する。しかし、県内に残る生息地は大野市六呂師高原等極めて限られている。

種の特徴

体長 17～20 mm で近縁種オオコオイムシよりもやや小型であるが、大きさだけでオオコオイムシと区別するのは危険である。国内他地域では平地の湖沼に生息することが多いが、県内の最大の生息地は山麓にある。他の水生動物類を捕食する。

生息を脅かす要因

池沼の埋め立てやアメリカザリガニ、オオクチバスといった外来種の侵入、農薬散布による生息環境悪化等が挙げられる。

参考文献 菊部・高桑 (1994)、川合・谷田 (2005)、内山 (2005)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
			○				○					○				○	